

平成27年10月4日

武蔵野市議会議員の皆様

ジュネーブ国連派遣団

団長 我那覇 真子

拝啓 突然お手紙を差し上げます失礼をお許し下さい。

先頃、武蔵野市の議会によって「地方自治の尊重を政府に求める意見書」が議決された事は大変残念な事でした。

何故なら、これは誤った認識の下に行われたものであり、結果的に武蔵野市議会の名誉を大きく傷つけるものになったからです。

まず、辺野古新基地建設というのは誤りであり、正しくは辺野古移設です。既に辺野古には1959年から辺野古基地が存在し、それも地元の誘致要請を受けてのものです。

そもそも普天間基地辺野古移設は市街地にあつて危険とされる飛行場を安全な辺野古基地内の海側に移設するものであります。これは又、普天間基地のみならず、他の複数の米軍基地の返還を含むものであり、在沖米軍基地はこれによって大幅に整理縮小されます。

現在沖縄の置かれている“辺野古新基地建設”反対は、その実態が反日反米運動なのです。武蔵野市議会の議決を受けて市内武蔵野公会堂で公演を行った稲嶺名護市長はかつて反米闘争運動一坪反戦地主に名を連ねていた人物です。

反戦一坪地主とは、過激派組織が中心となって行った運動です。

つまり、“辺野古新基地”反対運動とは、反日反米左翼運動に他なりません。実際に辺野古テント村辺野古基地前に座り込んで抗議する人々は、ほとんどが地元の人ではありません。いわゆる活動家と呼ばれる人々です。

先頃の武蔵野市議会の議決はこの運動を支援するものとなりました。

名護市民である私、我那覇真子は武蔵野市議会の今後の正しい対応によってその名誉の回復を願うものであります。

また、去る9月22日スイスのジュネーブにあります国際連合人権理事会において沖縄の真実を伝え、誤った情報が一方的に流れてしまうのを防ぐために演説を行ってまいりました。併せて皆様にご報告をさせて頂きたく存じます。

敬具